富山県新湊市

# 市内遺跡試掘調査報告

## 新湊市沖地区県営ほ場整備事業に伴う津幡江遺跡・今井遺跡試掘調査報告

2001年度

2002年3月

新湊市教育委員会

富山県新湊市

# 市内遺跡試掘調査報告

新湊市沖地区県営ほ場整備事業に伴う津幡江遺跡・今井遺跡試掘調査報告

2001年度

2002年3月

新湊市教育委員会

# 序

新湊市は天然の良港である放生津潟を擁し、その潟の周辺を小河川が縦横に走って周辺地域と結び、その水の利を活かして、古くから日本海側の海運・漁業の拠点として発展してきました。

新湊には鎌倉時代に越中守護所がおかれ、また室町将軍足利義材が滞在するなど、越中の政治・経済・文化の中心として栄えました。

先人が残した歴史・文化は、現代に生きる私たちが未来に引き継ぐべき貴重な財産です。市内に残る遺跡も、地域に根ざした歴史を語り継いでくれる重要な郷土資料と言えます。

市内では数年来開発事業が続いており、これらの遺跡の保存方法が問題となっています。本報告書は、新湊市沖地区で計画されている県営ほ場整備事業に先立ち実施した、津幡江遺跡・今井遺跡の試掘調査結果をまとめたものです。

両遺跡はともに地域の歴史を構築し、後世に伝えてゆくべき重要な資料となりうるものであります。

今後これらの遺跡を保護し、また地域の歴史を広く一般に紹介することに本報告書が多少なりとも役立つことができれば幸いと存じます。

最後に現地調査から報告書作成まで多大なご協力・ご助言を賜った地権者及び関係諸氏に感謝申し上げますとともに、今後とも文化財の保護に変わらぬご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成14年３月

新湊市教育委員会
教育長　竹　内　伸　一

# 例　言

1　本書は、平成12年・13年度に実施した富山県新湊市沖地内に所在する、津幡江遺跡・今井遺跡の試掘調査報告書である。

2　試掘調査は、新湊市沖地区で計画された県営ほ場整備事業（担い手育成型）に先立ち、新湊市教育委員会が主体となり実施した。また、調査費用については、新湊市教育委員会が国庫補助金・県費補助金の交付をうけた。

3　調査事務所は新湊市教育委員会生涯学習課に置き、生涯学習課長高林幸作が調査事務を総括した。調査に際しては、富山県教育委員会・富山県埋蔵文化財センターをはじめ、沖自治会・沖営農組合、(社)新湊市シルバー人材センター、原建設株式会社の協力を得た。

4　現地調査は、新湊市教育委員会文化財保護主事金三津英則が担当した。

5　現地調査参加者は下記のとおりである。(敬称略　五十音順)

海老　伸悦　木田美智代　紺　留治　佐伯サチ子　橋爪　芳雄　本林　芳子:(社)新湊市シルバー人材センター
麻生　和美　泉野　麗子　浦山みこと　楠井　悦子　正村　生　正村富美子

6　本書の作成は、下記の協力をうけて新湊市教育委員会文化財保護主事金三津英則が行った。
(敬称略　五十音順)

麻生　和美　浦山みこと　楠井　悦子　立野　宏美　塚田　高史　前田三津子

7　調査の実施から本書の作成にあたっては、下記の方々から貴重なご教示・ご指導をいただいた。記して謝意を表したい。(敬称略　五十音順)

安念　幹倫　池田　恵子　池野　正男　岩崎　誉尋　岡本淳一郎　尾野寺克美
久々　忠義　栗山　雅夫　関　清　水岡　育子　山口　辰一

8　出土遺物、記録図面等は新湊市教育委員会が一括して保存・公開している。

9　本書の土層及び出土遺物の色調は、小山忠正・竹原秀雄編著『新版標準土色帳』(1996年版)に準拠している。

10　遺物実測図中の番号は、出土遺物観察表及び写真図版の遺物番号に対応している。

11　遺物実測図中のスクリーントーンの貼り込みは次のとおり表現した。

■ 須恵器　▩ 珠洲焼　▨ 煤付着部分

# 目　次

例　言

目　次

Ⅰ　はじめに

1　遺跡の位置と環境 …… 1

2　調査に至る経緯と経過 …… 2

Ⅱ　調査の概要

1　調査の方法 …… 3

2　調査の概要 …… 3

（1）基本層序 …… 3

（2）遺構及び遺物 …… 5

弥生時代中期 …… 5

弥生時代後期 …… 5

古墳時代前期～中期 …… 5

古代 …… 5

中世 …… 5

時期不明の遺構 …… 6

3　調査のまとめ …… 6

参考文献

図　版

第1図　新湊市位置図

第2図　遺跡の位置と周辺の遺跡（1／50,000）

第3図　調査対象地位置図（1／10,000）

第4図　調査結果概要図（1／2,500）

第5図　旧水路・宅地および小字図

第6図　出土遺物実測図（1）津幡江遺跡

第7図　出土遺物実測図（2）今井遺跡

第8図　出土遺物実測図（3）今井遺跡

表

表1　試掘トレンチ一覧表（1）

表2　試掘トレンチ一覧表（2）

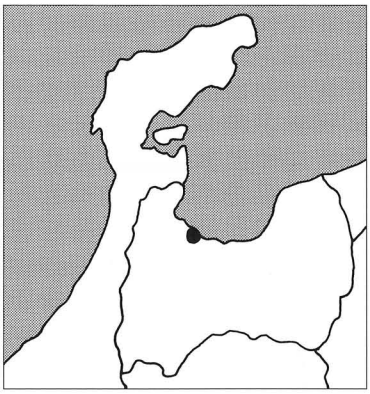
表3　出土遺物観察表（1）

表4　出土遺物観察表（2）

写真図版

# Ⅰ　はじめに

## 1　遺跡の位置と環境



第１図　新湊市位置図

新湊市は、富山湾へ注ぐ庄川右岸に広がる射水平野北部を中心にその市域を形成する。射水平野は、神通川・庄川をはじめとする諸河川によって運ばれた土砂の堆積により形成された複合扇状地性三角洲沖積平野で、その北端部に位置する新湊市は、標高約０～５ｍと県内でも最も標高の低い地域である。

現在では富山新港となっているが、市域のほぼ中央部には、かつての放生津潟が存在していた。放生津潟は約6,000年前の縄文海進の頃には、現在の海岸線より約７㎞内陸に位置する射水丘陵付近にまで広がっていたとされるが、丘陵部より流れる諸河川の堆積作用や、気候の寒冷化によって徐々に平野が形成され、それに伴い人々が生活空間を広げていった。

津幡江遺跡・今井遺跡が所在する新湊市の南部は、市内でも最も遺跡の集中する地域で、両遺跡の周囲では、弥生時代中期を中心とする高島Ａ遺跡・作道遺跡、新湊市と大島町にまたがる古代の高木・荒畑遺跡（大島町側では北高木遺跡）など縄文時代～中世にかけての多くの遺跡が存在する。前述の遺跡以外は、調査の実績が少ないため、現在散布地となっているものが多いが、周辺では縄文～近世にかけて幅広い時期の遺物が採集されている。これらの遺跡立地の背景には、地区の西方を流れる神楽川の存在が挙げられ、流域の遺跡調査から、同河川は古来より交通・運搬等に重要な役割を果たしてきたと考えられている（久々・林

第２図　遺跡の位置と周辺の遺跡（平成12年10月現在　1／50,000）
1. 津幡江遺跡　2. 今井遺跡　3. 中曽根遺跡　4. 松木遺跡　5. 朴木Ｃ遺跡　6. 朴木Ａ遺跡　7. 高島Ａ遺跡　8. 作道遺跡　9. 久々湊遺跡　10. 松木大ノ田遺跡　11. 松木中鹿遺跡　12. 鏡宮北遺跡　13. 野村遺跡　14. 東津幡江遺跡　15. 下村加茂遺跡　16. 沖塚原遺跡　17. 沖塚原東Ｂ遺跡　18. 鏡宮遺跡　19. 高木・荒畑遺跡　20. 北高木遺跡　21. 南浦遺跡　22. 今井西遺跡　23. 津幡江西遺跡　24. 今井南遺跡　25. 今井二島遺跡

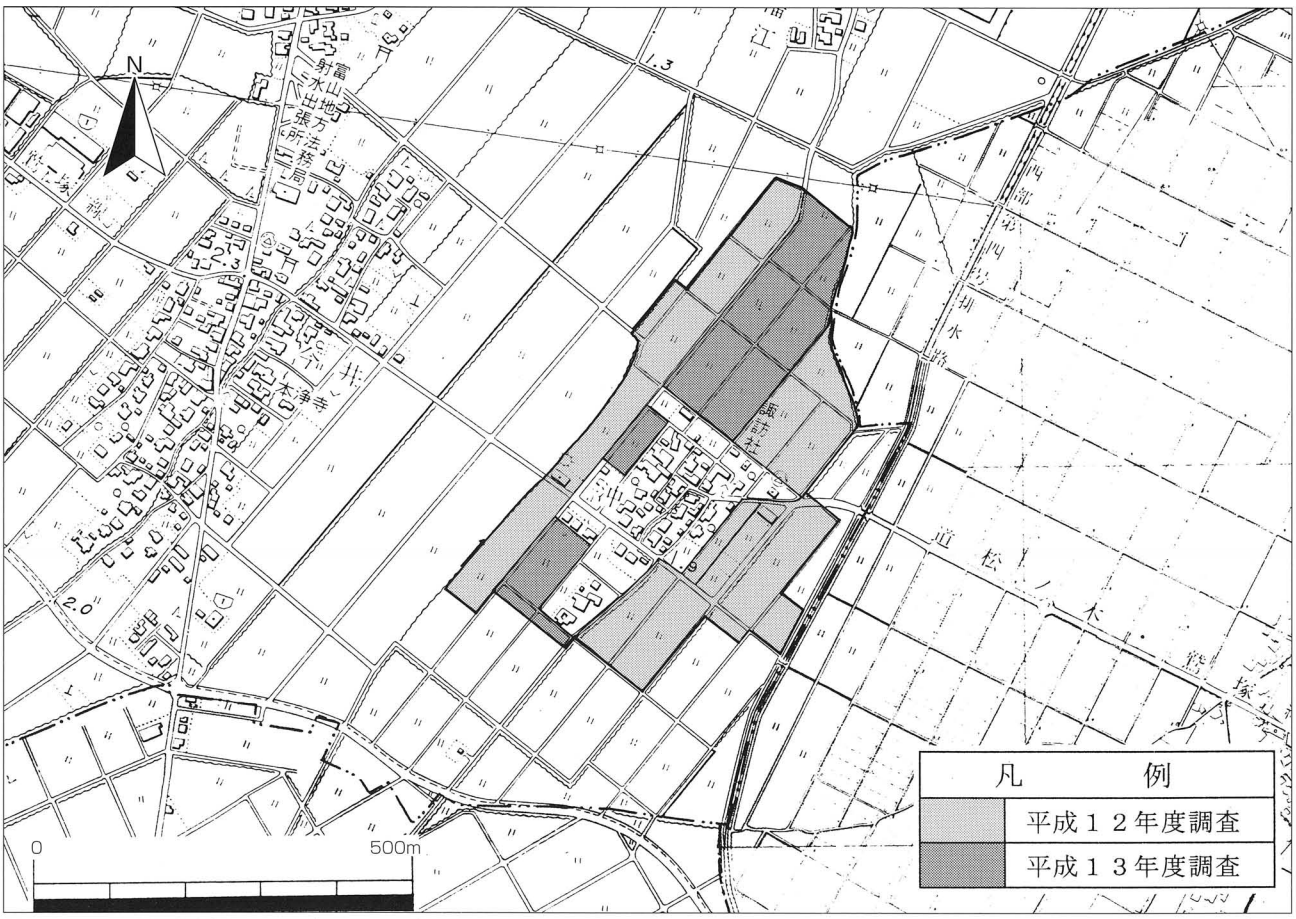
寺1994)。特に今回の調査対象地である沖地区は、中世以来の街道である草島往来のルート上に位置すると考えられており、この集落の成立は交通史上からも注目される。

また高木・荒畑遺跡では縄文後・晩期の遺跡の存在も確認されており、下流に位置する鏡宮・津幡江地内では、現在市内最古の遺物である新崎式土器が採集されるなど、市内では数少ない縄文土器が比較的まとまって分布する地域でもある。このことから、神楽川水系の諸河川は、射水平野を流れる河川の中でも比較的土砂の運搬力が大きく、流域においては早い時期から平野が形成されていたと考えられている（宗1998)。

## 2　調査に至る経緯と経過

平成11年秋、富山県高岡農地林務事務所から、新湊市沖地区での県営ほ場整備事業（担い手育成型）計画の照会があった。これをうけて新湊市教育委員会では、計画地内に周知の埋蔵文化財包蔵地である津幡江遺跡・今井遺跡が所在することから、埋蔵文化財の保護措置を講ずる必要があり、事前に試掘調査が必要となる旨、県高岡農地林務事務所に回答した。県教育委員会文化財課・県埋蔵文化財センター・県高岡農地林務事務所・新湊市農業水産課・地元沖営農組合との協議をもち、平成12年秋に新湊市教育委員会が国庫補助・県費補助をうけて、試掘調査を実施することとなった。

試掘調査は当初、ほ場整備対象区域約224,000㎡のうち、津幡江遺跡・今井遺跡及びその隣接部分を含めた約126,600㎡を調査対象とし、平成12年度で終了する予定であった。その後、平成12年９月になって沖営農組合から調査対象地内において麦及び大豆の転作を行いたいという要望を受けたため、単年度での調査終了が困難となり、高岡農地林務事務所・新湊市農業水産課・沖営農組合との協議の結果、転作部分を除く約85,400㎡を平成12年度中に行い、残りの約41,200㎡の調査を平成13年度に実施することとなった。試掘調査は平成12年10月23日～12月５日、平成13年10月22日～11月２日にかけて実施した。




第３図　調査対象地位置図（1／10,000）

# Ⅱ　調査の概要

## 1　調査の方法

調査は、幅約0.9～１ｍの試掘トレンチ（以下Ｔと略す）を現水田区画の長辺に沿って設定し、バックホウによる掘削後、人力により床面及び壁面の清掃を行い、遺構・遺物の有無を確認するとともに、写真と実測により記録を取った。工事の性格上、特に遺物包含層及び遺構確認面の高低差を正確に把握する必要があったため、調査地区内に９点の仮ＢＭを設定し、実測に際して、田面及び遺物包含層・遺構確認面までの深さを測定し、土層図に標高を明記した。

調査開始時点では、ほ場整備事業が事業採択前であり、試掘調査の結果を参考に工事計画を立てる予定であった。そのため調査対象地区では翌年も耕作が行われることになるため、掘削深度は原則として、第１遺構面と考えられる灰黄色粘土層（田面より15～50㎝）までとした。掘削・埋め戻しに際しては耕作土と基盤土の混入を避ける必要があり、特に転作地については、耕作土（地表から約20㎝）を幅約３～４ｍにわたって除去した後に掘削を行い、基盤土、耕作土の順に埋め戻しを行った。また、用排水や畦畔等の関係から、バックホウの乗り入れが困難な場所で、特に調査が必要と考えられる場所については、人力により掘削を行った。なお、部分的に人力による幅約30㎝、長さ50㎝～１ｍ程度のサブトレンチを設定して下層確認を行った。

設定したトレンチは計103本で、トレンチ番号は平成12・13年度で通し番号とした。発掘面積は平成12年度がＴ－１～71の2,156㎡、13年度がＴ－72～103の1,028㎡である。

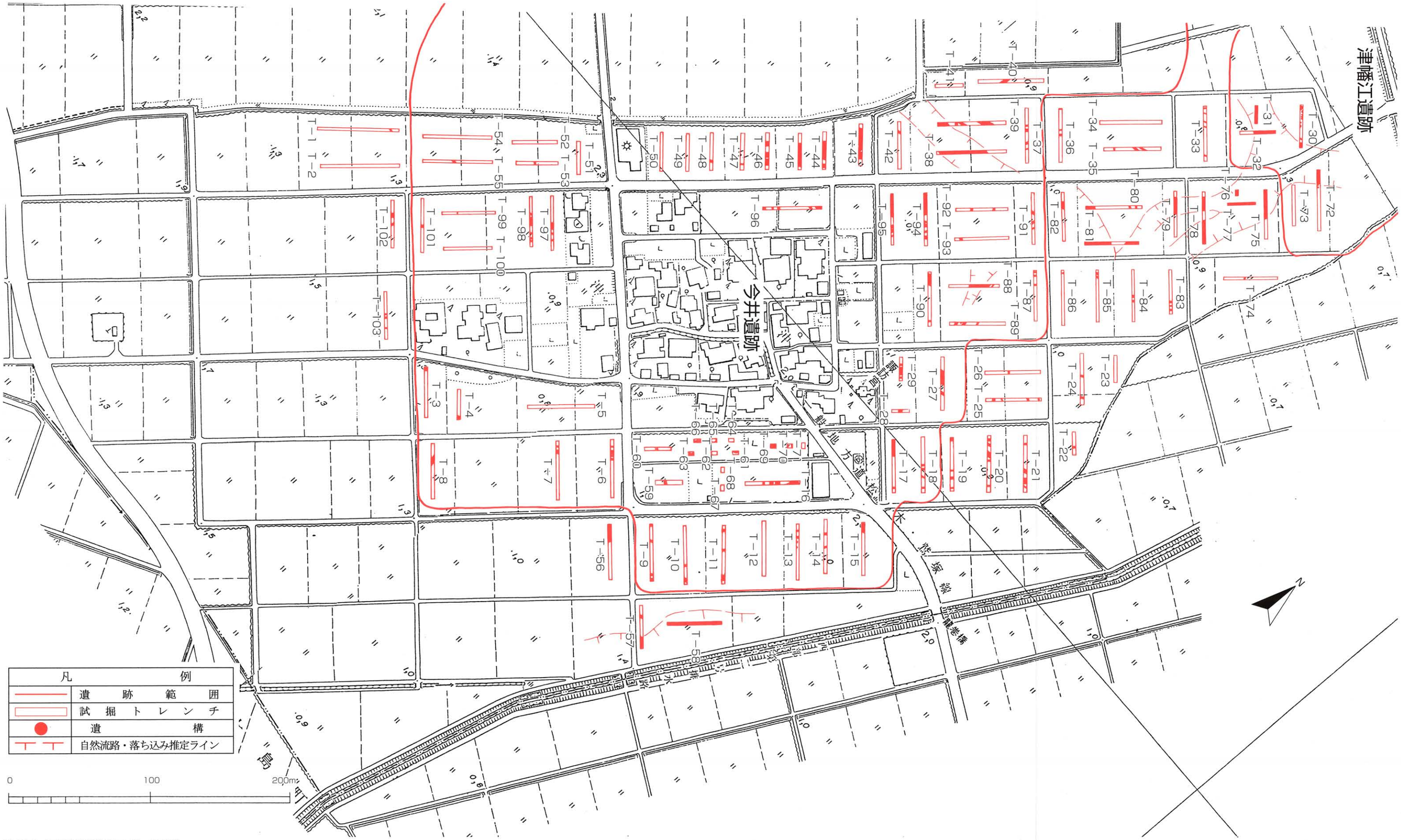
## 2　調査の概要

### （1）基本層序

基本層序は上層から、現耕作土、Ⅰ層（黒褐色粘土・黄灰色粘土層）、Ⅱ層（黒色粘土層）、Ⅲ層（灰黄色粘土・灰色粘土・灰黄色砂質土層）、Ⅳ層（灰オリーブシルト層）、Ⅴ層（黄灰色粘土層）、Ⅵ層（暗灰黄色粘土層）となる。

Ⅰ層が水田床土、Ⅱ層が遺物包含層、Ⅲ層が遺構確認面となり、Ⅴ・Ⅵ層は腐植植物を多量に含むピート層である。津幡江遺跡の範囲内においてのみ、Ⅲ層を灰黄色砂質土として明確に区分できたが、その他では弥生～中世にかけての遺物・遺構をⅡ・Ⅲ層ともに同一層として確認し、異なる層と断定できなかった。過去において、削平と堆積が繰り返し行われたことが原因と考えられる。なお、Ⅴ・Ⅵ層はＴ－１・57での下層確認によるため、場所によっては基本層序と異なる可能性がある。またⅥ層以下は湧水が激しくなるため確認を行っていない。

調査対象地内は一部を除いて比較的標高差が少なく、全体的にほぼ基本層序通りの堆積状況を示すが、もともと標高が低く低湿地が散在していた場所であるため、調査区の各所で耕作に伴う切土や盛土がみられた。Ⅱ・Ⅲ層は、現在の耕作や戦後間もなく行われた耕地整理の際に削平を受けており、Ⅱ層の大部分が消滅している。耕地整理による削平の影響は、Ⅲ層が比較的標高の高い場所に位置する北東・東南側で特に大きく、Ｔ－30付近では現耕作土直下の地表下約15㎝程の位置で遺構が確認でき、Ｔ－５・６より南側ではⅢ層の多くが消滅していた。




第４図　調査結果概要図（1／2,500）

## （2）遺構及び遺物

調査の結果、ほぼ全てのトレンチで遺構又は遺物の存在を確認したが、一部の集中地点を除くと遺物を伴う遺構が少なく、時期確定の困難なものが多い。遺物は弥生時代～近世の各時期のものが見られるが、遺構として確認できたのは、弥生時代中期・後期・古墳時代前期・中世・近世以降のものである。これらの遺構の覆土はⅡ層の黒色粘土・Ⅱ層よりやや締まりのない黒色粘土・黒褐色粘土等であり、時期差による覆土の違いは明確ではない。以下、各時代ごとに遺構・遺物の概要を記す。

### 弥生時代中期

弥生時代中期の遺構・遺物は津幡江遺跡南辺のＴ－30・72・73で検出した。遺構には土坑・溝があり、Ｔ－30の中央部では方形の土坑も確認できた。Ｔ－30の東端、Ｔ－72の西端には落ち込みがあり、出土遺物や土層の堆積状況から両者は同一のものと考えられる。

出土遺物はほぼ全て同時期のものと考えられ、特に落ち込みやその付近に集中していた。器種の判明するものには甕・壺があり、落ち込み部分の土器集中地点からは、１個体と考えられる壷や、沈線文・弧文・斜縄文が施される栗林系の甕と考えられる土器も出土している。

Ｔ－31・32では自然流路と考えられる谷状の落ち込みが確認できたが、谷の南側では遺構・遺物はみられず、またＴ－73より南側では同時期の遺物がみられなくなるため、この付近が遺跡の南端部で、遺跡はここより北～西側に向かって広がると考えられる。なお、Ｔ－72・73の中央部付近ではⅢ層が急に高くなるが、この部分より東側は削平の影響が強く、遺構・遺物の存在は確認できなかった。

### 弥生時代後期

弥生時代後期の遺構・遺物はＴ－55で検出した。遺構は溝１条のみであり、覆土中から有段口縁甕の破片が出土している。遺物は出土していないが、Ｔ－55北東部のＴ－97・98で検出した溝が、規模・方向・覆土の状態から、これに対応するものと考えられる。この溝以外に周辺では同時期の遺構・遺物は確認できないことから、付近は遺跡の縁辺部となるか、あるいは削平により消滅しているものと考えられる。

### 古墳時代前期～中期

古墳時代の遺構・遺物はＴ－９・10・16・38・91で検出した。Ｔ－10では幅約1.5m、深さ約20cmの溝があり、覆土中から土師器甕が出土している。これに続くと考えられる溝がＴ－９でも確認でき、覆土中から土師器の細片が出土しているが、両者ともに遺物は１点ずつしか出土していない。

Ｔ－38・39では幅約24mを測る南西～北東方向の自然流路と考えられる谷状の落ち込みを確認し、この下部より土師器高坏の脚部や土師器片等が出土した。この谷部分は上層よりⅠ層、黒褐色粘土、黒色粘土（Ⅱ層？）、砂層の順に堆積しており、黒褐色粘土中から中世の遺物が出土していることから、古墳時代頃からこの場所に谷が存在し、中世頃に埋没したものと考えられる。遺物の摩耗が少ないため、付近に遺構の存在を推定したが、周辺のトレンチでは同時期の遺物・遺構は確認できなかった。

上記２か所以外は遺物のみの単独出土であることから、調査対象地内での古墳時代の遺構の存在は希薄であると考えられる。今井遺跡では、過去に古墳時代中期の土器が採集されているが、今回の調査結果から当期の遺跡の中心部は、調査対象地外である現在の沖・今井集落の中間辺りに存在するものと考えられる。

### 古　　代

Ｔ－72で須恵器甕の胴部破片が１点出土したのみであり、周辺に古代の遺跡が存在する可能性は低いと考えられる。

### 中　　世

中世の遺構・遺物は現在の集落付近であるＴ－16・29・43～46・59～71・94～96に集中している。検出し

たものはほとんどが溝状の遺構であるが、試掘トレンチの幅が狭いため、土坑や井戸等、他の遺構との誤認の可能性もある。

全体的に溝は幅１～２ｍ前後でわりと規格性があり、２～３条の溝が並行して存在する場所もある。Ｔ－16・43・96では不整形ながらＬ字やＴ字状の溝が見られ、Ｔ－66では石組井戸１基を検出した。これらの遺構のあり方から、溝の多くは屋敷地や集落内の道路等を区画するものと考えられ、付近一帯が中世期の集落であったことを想定させる。

Ｔ－29では幅約5.5mの南北方向の溝を検出した。この溝はＴ－20・21・27で検出した溝と一連のもので、明治８年作成の旧地籍図（第５図）に記された南西～北東方向に流れる水路に対応すると思われるが、土層の観察から、この水路以前にも溝が存在していたことが確認でき、珠洲の甕１点がこれに伴って出土している。

出土遺物には珠洲・中世土師器皿・瓦質土器・瓷器系陶器・青磁・青白磁・砥石があり、14・15世紀代を中心に、13世紀後半頃～16世紀代まで幅広い時期の遺物がみられる。遺構出土のものが多く、Ｔ－43・96では溝の覆土中に多量の中世土師器細片が含まれていた。

遺構・遺物はＴ－29・43・94より北側および松木・鷲塚線より南側になると一変して希薄になるため、中世期の集落範囲は、ほぼ現在の集落付近に限られると考えられる。なお、Ｔ－43～46まで検出できた一連の南北方向の溝が、Ｔ－42・Ｔ－47では確認されないことから、付近で溝が屈曲し、この溝がそれぞれ集落範囲の西側及び南北の境界になると考えられる。

**時期不明の遺構**

遺物が出土せず時期確定の困難な遺構が、現集落以北を中心に調査地区のほぼ全域で検出できた。溝状の遺構が多く、遺構及び周辺からも遺物はほとんど出土せず、Ｉ層中から若干の珠洲や近世以降の陶磁器が出土したのみである。このうちのいくつかは旧地積図に記載された水路に対応するが、その他の時期不明の溝には中世以前に遡るものも存在する可能性がある。Ｔ－88・89検出の落ち込みに並行する溝は、覆土の状態や、ごく僅かではあるが遺物が出土していることから、中世期のものと推定している。その他は、大部分が近世以降に存在したものと思われるが、集落周辺が中世以来、絶えず水田として利用されてきてたとすれば、中世期の用排水を継承し、修復や改良を加えながら使用され続けたものも含まれていると考えられる。

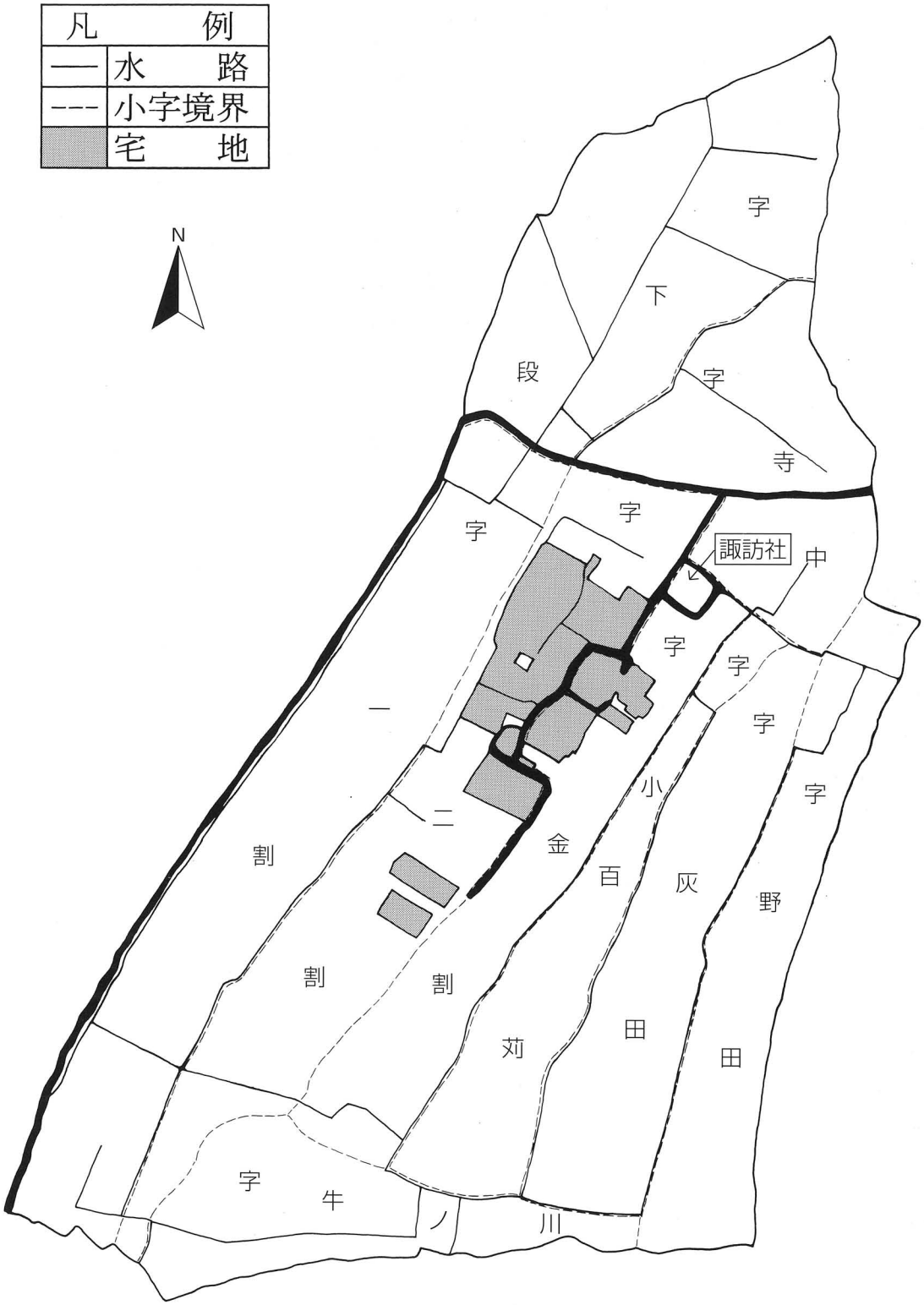
この他に調査地区の各所で谷状の落ち込みが確認できた。Ｔ－37・38等、自然流路と考えられるものもあるが、他に周辺のトレンチでは全く確認できなくなり、自然流路のような一連のものと断定できないもの、或いは一連のものとして見た場合かなり蛇行した流路となる落ち込みがある。

これらの落ち込みの覆土は黒色でしまりのない粘土であり、遺物はほとんど出土せず、腐食植物が多量に含まれるという特徴があることから、かつてこの地に多く存在したという「不湖」・「無湖」等と呼ばれた湿地帯跡との関連が考えられる。耕地整理以前の沖には沼田が多く存在したといわれる。沼田はおそらくこの「不湖」・「無湖」に関係する場所に所在した水田と考えられ、Ｔ－57・58では、標高の高い田からⅢ層を削って埋め立てられていることが確認できた。市内一帯はもともと標高が低く、水害を受けやすい場所であり、河川も氾濫の度に幾度となくその流れを変えていた。「不湖」・「無湖」の形成も旧河川の流路が関係していると思われ、特に調査対象地北部ではこれらが混在して複雑な地形となっている。

## 3　調査のまとめ

調査対象地内では、弥生時代中期後半（津幡江遺跡）・中世（今井遺跡）の２時期を中心とする遺跡の広がりが確認できた。

津幡江遺跡では、弥生時代中期後半頃の遺跡の広がりを確認した。溝・土坑・方形土坑等の遺構や、まと




第５図　旧水路・宅地および小字図（明治８年　越中国射水郡沖村地引絵図より作成）

まりを持って出土する遺物の存在が、調査地から北側にかけての同時期の集落の存在を予想させる。

弥生時代頃には気候の寒冷化によって、海水面が現在より１～２ｍ程下降したと考えられている。これに伴い海岸線も後退し、放生津潟の大部分はマゴモ・ヨシ等の生い茂る低湿地となった。高島Ａ遺跡・作道遺跡・下村加茂遺跡等、射水平野の弥生時代前期～中期頃の集落遺跡は、放生津潟を取り囲むように立地している。灌漑技術が十分に発達していなかった当時、水稲耕作を行う上で、潟周辺の低湿な環境が好まれたのであろう。津幡江遺跡もこのような農耕を基幹とする集落であったと考えられる。

今井遺跡では弥生時代後期～古墳時代・中世にかけての遺構・遺物を確認しているが、集落としてのまとまりが見られるのは中世以降である。試掘調査の結果のみでは集落の全体像を把握するには至らないが、13世紀後半頃～近世にかけての遺物の存在や、旧地籍図にみえる集落の位置から、集落が中世以来、現在に至るまでその位置を大きく変化させず、連綿と営まれていたと考えられる。また、現集落隣接地で遺構・遺物が密集し、その外縁部で急に希薄となる状況から、集落の周囲が水田として利用され続けてきたことが想定できる。なお、現在の沖集落センターと諏訪社の間には元和２年（1616）に小杉町へ移転したとされる長寿寺跡地があり、そこに室町時代の五輪塔空風・火・水輪が残されている。旧地積図では北側隣接地が「寺中」という小字名であり、諏訪社の東側隣接地には水路を伴うコの字形の方形区画が確認できる。この区画は今回の試掘調査で検出した溝の区画方向とも一致しており、集落に関連する寺院跡の存在が推定できる。

鎌倉時代には、大門～草島へ通じる射水平野南部ルートの草島往来が整備され、越中の主要街道の一つとなったとされる。沖集落はこの街道沿いに位置し、また神楽川水系の諸河川により、守護所所在地である放生津との水運にも恵まれた交通の要所である。守護所の放生津への移転や草島往来の整備等、中世期の社会的変化が集落成立の要因となったと考えられる。

以上のとおり、調査対象地内では津幡江・今井両遺跡に関連性はみられず、時期的にも隔絶がある。津幡江遺跡は遺跡の南端部しか調査を行っていないため、詳細は今後の調査を待たねばならないが、両遺跡の立地・時期的背景には周囲の社会的状況や気候・環境の変化が反映されていることが伺われる。

## 参考文献


射水広域圏事務組合　2000　『いみずの神社・寺院』

大島町　1989　『大島町史』

久々忠義・林寺厳州　1994　「射水平野の歴史－神楽川流域を探る－」『大境第16号』

新湊市　1964　『新湊市史』

新湊市教育委員会　1999　『新湊市埋蔵文化財分布調査報告Ⅱ』

新湊市教育委員会　2000　『高島Ａ遺跡発掘調査概要』

宗　融子　1998　「放生津潟周辺の縄文時代遺跡」　『新湊考古歴史サークル会誌№２』

大門町　1994　『大門町歴史の道調査報告書』

高岡市教育委員会　1996　『石塚遺跡調査概報Ⅳ』

竹脇久雄　1994　『放生津潟周辺の開拓』新湊市民文庫17

棚元理一　1998　「射水平野の古代北陸道」『草島道調査報告書』　富山市日本海文化研究所紀要第11号

富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所　1996　『梅原護摩堂遺跡』

長野県考古学会弥生部会編　1999　『長野県の弥生土器』

藤井昭二　1964　「地質からみた射水平野の形成と放生津潟の変遷」　『放生津潟周辺の地学的研究』富山地学会編

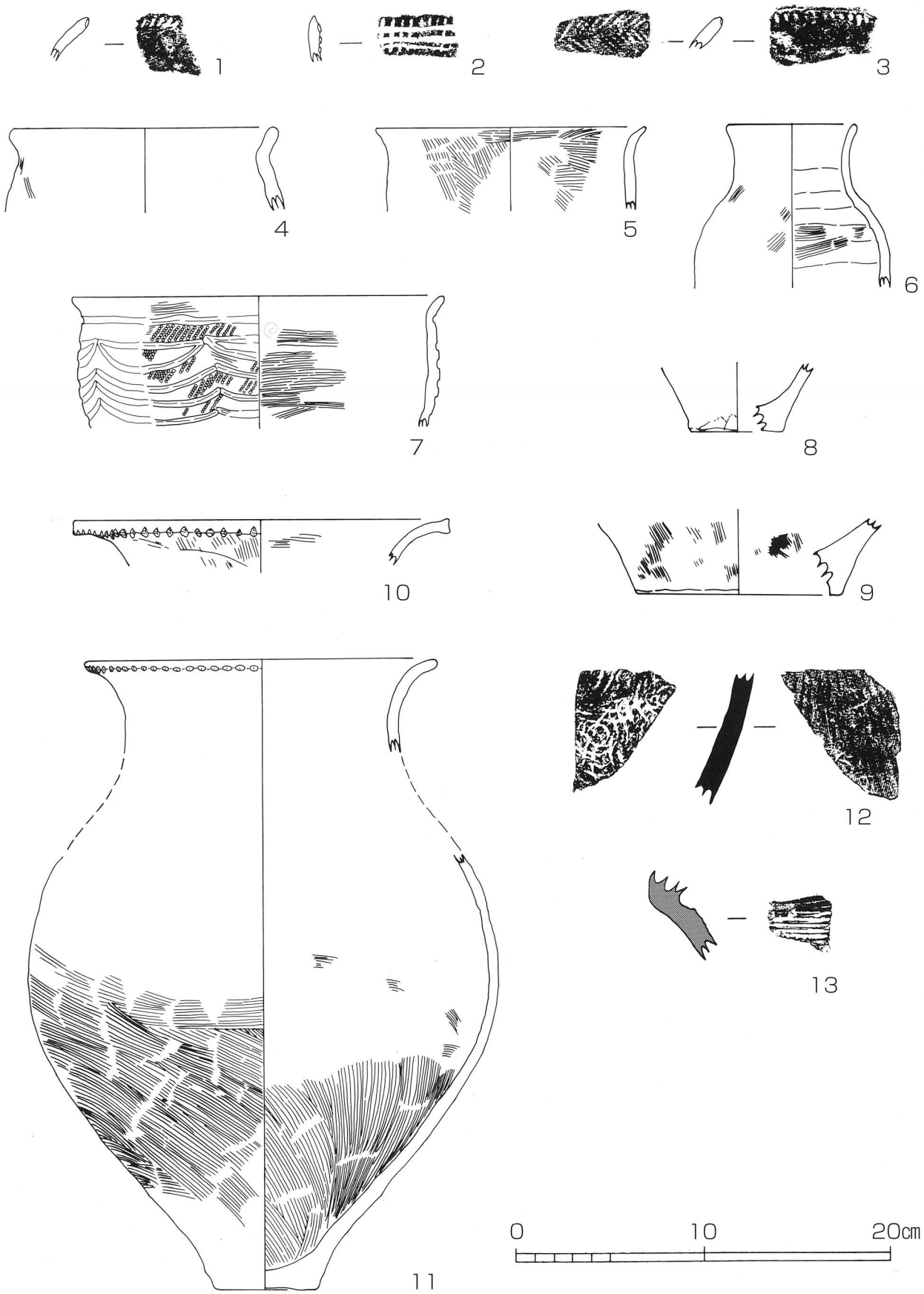
吉岡康暢　1994　『中世須恵器の研究』　吉川弘文館

| トレンチ番号 | トレンチ延長(m) | 検出遺構・時期 | 出土遺物 | 調査年度 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| T－1 | 58.1 | 時期不明：溝1 | | H.12 | |
| T－2 | 55.5 | | | 〃 | |
| T－3 | 36.2 | 時期不明：溝1 | | 〃 | Ⅲ層消滅 |
| T－4 | 22.2 | 時期不明：溝1 | | 〃 | Ⅲ層消滅 |
| T－5 | 48.6 | | | 〃 | |
| T－6 | 40.9 | 近世以降：溝1　時期不明：溝4 | 近世以降陶磁器 | 〃 | |
| T－7 | 42.2 | 近世以降：溝1　時期不明：溝2 | | 〃 | |
| T－8 | 40.2 | 時期不明：溝1 | | 〃 | |
| T－9 | 41.4 | 古墳？：溝1　中世：溝1　時期不明：溝2 | 土師器（古墳時代？）・珠洲 | 〃 | |
| T－10 | 42.0 | 古墳：溝1　時期不明：溝1 | 土師器（古墳時代）・珠洲 | 〃 | |
| T－11 | 42.5 | 時期不明：溝4 | 近世以降陶器擂鉢 | 〃 | |
| T－12 | 40.5 | | 珠洲 | 〃 | 攪乱 |
| T－13 | 40.5 | 中世：溝1　時期不明：溝1・土坑2 | 中世土師器皿 | 〃 | |
| T－14 | 39.5 | 中世：溝1　時期不明：溝1 | 珠洲・越中瀬戸 | 〃 | |
| T－15 | 38.1 | 時期不明：溝1 | 中世土師器皿 | 〃 | |
| T－16 | 39.6 | 中世：溝5　近世以降：溝1 | 土師器（古墳時代）・珠洲・中世土師器皿・近世以降陶磁器 | 〃 | |
| T－17 | 38.6 | 近世以降：溝1　時期不明：溝1 | 近世以降陶磁器 | 〃 | |
| T－18 | 39.7 | 近世以降：溝1　時期不明：溝3 | 珠洲 | 〃 | |
| T－19 | 38.7 | 近世以降：溝1　時期不明：溝3 | 近世以降陶磁器 | 〃 | |
| T－20 | 41.0 | 近世以降：溝1　時期不明：溝5 | 越中瀬戸 | 〃 | |
| T－21 | 41.0 | 近世以降：溝1　時期不明：溝3 | | 〃 | |
| T－22 | 16.2 | 時期不明：溝1 | | 〃 | |
| T－23 | 19.0 | | 珠洲 | 〃 | |
| T－24 | 37.6 | 時期不明：溝2 | | 〃 | |
| T－25 | 40.5 | 時期不明：溝4 | | 〃 | |
| T－26 | 40.6 | 時期不明：溝1 | | 〃 | |
| T－27 | 38.1 | 近世以降：溝1　時期不明：溝2 | 近世以降陶磁器 | 〃 | |
| T－28 | 11.9 | 時期不明：溝1 | | 〃 | Ⅲ層消滅 |
| T－29 | 16.7 | 中世：溝1　近世以降：溝1　時期不明：溝2 | 珠洲・越中瀬戸 | 〃 | |
| T－30 | 31.6 | 弥生：溝2・土坑7・落ち込み1　中世：土坑 | 弥生土器・珠洲 | 〃 | Ⅲ層砂質 |
| T－31 | 12.2 | 弥生～中世？：落ち込み1 | | 〃 | 落ち込みはT－30と同一か |
| T－32 | 25.3 | 弥生～中世？：落ち込み1 | | 〃 | 落ち込みはT－30と同一か |
| T－33 | 40.1 | 時期不明：溝5 | 弥生土器 | 〃 | |
| T－34 | 44.6 | | | 〃 | |
| T－35 | 40.7 | 時期不明：溝3 | 近世以降陶磁器 | 〃 | |
| T－36 | 38.9 | 時期不明：溝3 | | 〃 | |
| T－37 | 40.5 | 近世以降：溝1　時期不明：溝3 | | 〃 | |
| T－38 | 50.3 | 古墳～中世？：自然河道1 | 土師器（古墳時代）・珠洲・中世土師器・青磁 | 〃 | |
| T－39 | 49.5 | 古墳～中世？：自然河道1　時期不明：溝3 | 土師器（古墳時代）・珠洲・近世以降陶磁器 | 〃 | |
| T－40 | 46.1 | 時期不明：溝1 | | 〃 | |
| T－41 | 19.2 | | 珠洲 | 〃 | |
| T－42 | 34.8 | 時期不明：溝1 | 土師質土器 | 〃 | |
| T－43 | 29.6 | 中世：溝2 | 珠洲・中世土師器皿・青磁 | 〃 | |
| T－44 | 26.9 | 中世：溝2 | 珠洲・中世土師器皿 | 〃 | |
| T－45 | 26.0 | 中世：溝2 | | 〃 | |
| T－46 | 26.0 | 中世：溝3 | 近世以降陶磁器 | 〃 | |
| T－47 | 26.3 | 時期不明：溝1 | 弥生土器？・土師器？ | 〃 | |
| T－48 | 26.9 | 時期不明：溝1 | | 〃 | |
| T－49 | 27.1 | | | 〃 | |
| T－50 | 28.5 | | 近世以降陶磁器 | 〃 | |
| T－51 | 23.8 | | 青磁 | 〃 | |
| T－52 | 31.7 | | 中世土師器皿 | 〃 | |
| T－53 | 29.3 | 時期不明：溝1 | 珠洲・青磁・越中瀬戸・近世以降陶磁器 | 〃 | |

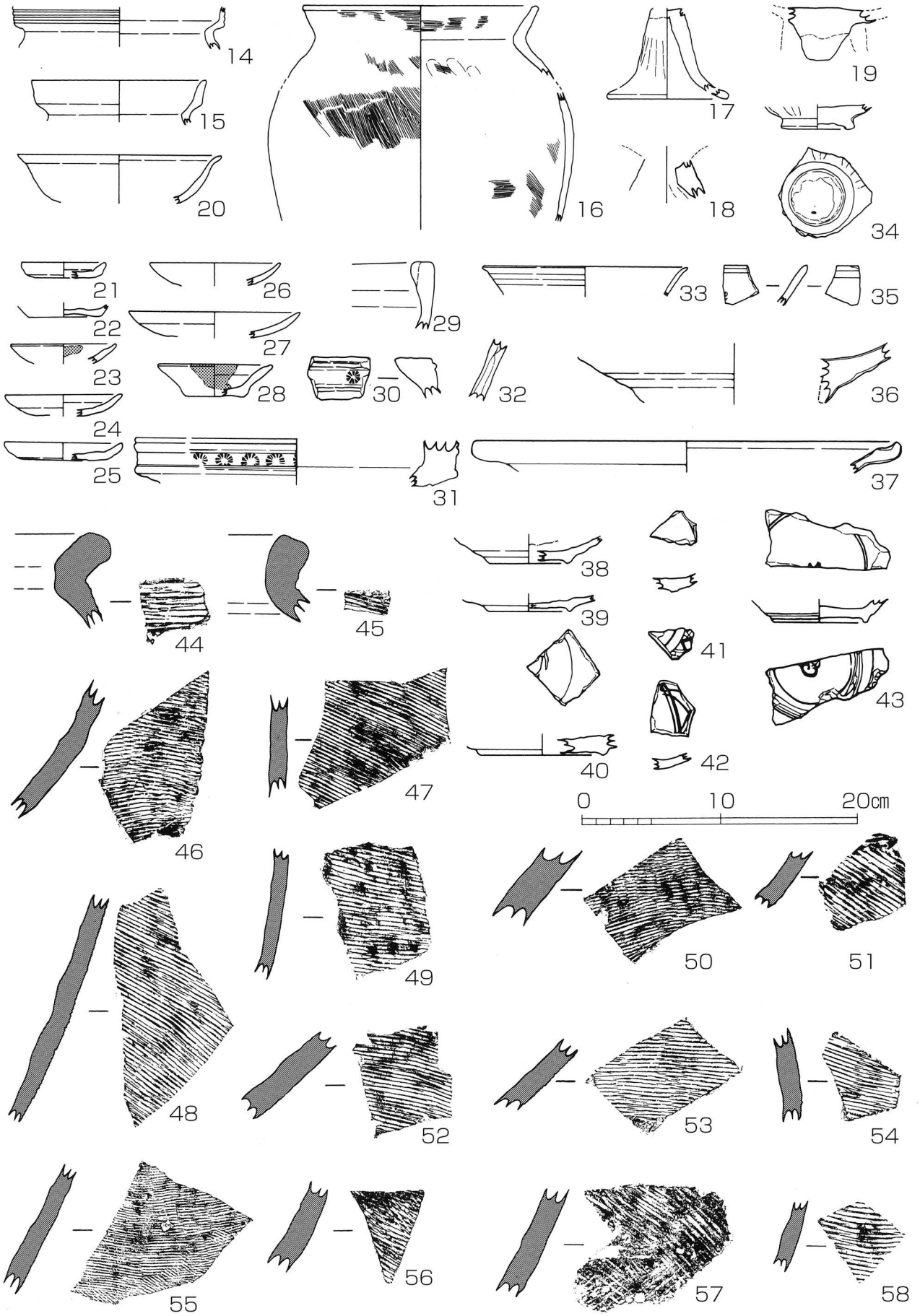
表1　試掘トレンチ一覧表（1）

| トレンチ番号 | トレンチ延長(m) | 検出遺構・時期 | 出土遺物 | 調査年度 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| T－54 | 49.3 | | 珠洲 | H.12 | |
| T－55 | 49.4 | 弥生：溝1 | 弥生土器・珠洲 | 〃 | |
| T－56 | 40.0 | 時期不明：溝1・落ち込み1 | 越中瀬戸・近世以降陶磁器 | 〃 | |
| T－57 | 30.9 | 時期不明：溝1・落ち込み1 | 越中瀬戸・近世以降陶磁器 | 〃 | |
| T－58 | 38.8 | 時期不明：溝1・落ち込み1 | 越中瀬戸 | 〃 | |
| T－59 | 19.8 | 中世？：溝1 | | 〃 | |
| T－60 | 20.5 | 中世？：溝1 | | 〃 | |
| T－61 | 4.0 | 中世？：土坑1 | 珠洲・瓦質土器 | 〃 | |
| T－62 | 4.0 | | | 〃 | |
| T－63 | 4.0 | 中世？：溝1 | 珠洲・瓦質土器・近世以降陶磁器 | 〃 | |
| T－64 | 4.2 | | 中世土師器皿・近世以降陶磁器 | 〃 | |
| T－65 | 4.1 | 中世：溝1 | 珠洲 | 〃 | |
| T－66 | 3.8 | 中世：井戸1 | 珠洲・中世土師器皿・瓦質土器・越中瀬戸・近世以降陶磁器 | 〃 | |
| T－67 | 4.0 | | 瓦質土器 | 〃 | |
| T－68 | 4.0 | | 中世土師器皿 | 〃 | |
| T－69 | 4.0 | 中世？：溝2 | 瓦質土器 | 〃 | |
| T－70 | 4.0 | 中世？：溝1・土坑1 | 中世土師器皿・近世以降陶磁器 | 〃 | |
| T－71 | 4.0 | | 中世土師器・越中瀬戸・砥石 | 〃 | |
| T－72 | 44.1 | 弥生：土坑2・落ち込み1 | 弥生土器・須恵器 | H.13 | 落ち込みはT－30と同一か |
| T－73 | 30.0 | | 弥生土器 | 〃 | |
| T－74 | 38.5 | 時期不明：溝1 | | 〃 | |
| T－75 | 35.7 | 時期不明：落ち込み1 | 不明土師器片 | 〃 | 落ち込みはT－30・31・32・72と一連のものか |
| T－76 | 4.1 | 時期不明：落ち込み1 | | 〃 | |
| T－77 | 19.8 | 時期不明：落ち込み1 | 不明陶器 | 〃 | |
| T－78 | 37.3 | 時期不明：落ち込み2 | 珠洲・不明土師器片 | 〃 | |
| T－79 | 33.3 | 時期不明：落ち込み1 | 不明土器片 | 〃 | |
| T－80 | 40.3 | 時期不明：溝2・落ち込み1 | 中世土師器皿・不明土師器片 | 〃 | |
| T－81 | 38.7 | 時期不明：落ち込み2 | | 〃 | |
| T－82 | 35.2 | 時期不明：溝1 | | 〃 | |
| T－83 | 31.5 | 近世以降：溝1　時期不明：溝2 | | 〃 | |
| T－84 | 37.0 | 近世以降：溝1　時期不明：溝1 | | 〃 | |
| T－85 | 36.3 | 近世以降：溝1　時期不明：溝1 | 不明磁器 | 〃 | |
| T－86 | 38.9 | 時期不明：土坑1 | | 〃 | |
| T－87 | 35.7 | 近世以降：溝1　時期不明：溝2 | | 〃 | |
| T－88 | 36.5 | 中世？：溝3　時期不明：落ち込み1 | | 〃 | |
| T－89 | 40.3 | 中世？：溝3・土坑1 | | 〃 | |
| T－90 | 38.8 | 近世以降：溝1　時期不明：溝1 | | 〃 | |
| T－91 | 37.9 | 時期不明：溝3 | | 〃 | |
| T－92 | 37.6 | 時期不明：溝2 | | 〃 | |
| T－93 | 39.1 | 近世以降：溝1 | | 〃 | |
| T－94 | 38.1 | 中世：溝3　近世以降：溝1　時期不明：溝1・土坑1 | | 〃 | 時期不明の遺構は中世か |
| T－95 | 36.4 | 中世：溝5 | 珠洲 | 〃 | |
| T－96 | 42.6 | 中世：溝5・落ち込み1 | 珠洲・中世土師器皿・瓦質土器 | 〃 | 落ち込みは溝か |
| T－97 | 39.6 | 弥生？：溝1　近世以降：溝1　時期不明：溝1 | 近世以降陶器 | 〃 | |
| T－98 | 36.4 | 弥生？：溝1　近世以降：溝1　時期不明：溝3 | 珠洲 | 〃 | |
| T－99 | 37.5 | 近世以降：溝1 | | 〃 | |
| T－100 | 34.3 | | 近世以降陶器 | 〃 | |
| T－101 | 39.9 | 近世以降：溝1 | 近世以降陶器 | 〃 | |
| T－102 | 34.7 | 近世以降：溝1　時期不明：溝2 | 越中瀬戸・近代以降陶器・瓦 | 〃 | |
| T－103 | 34.3 | 時期不明：溝3 | 越中瀬戸・近世以降陶器・不明土師器片 | 〃 | |

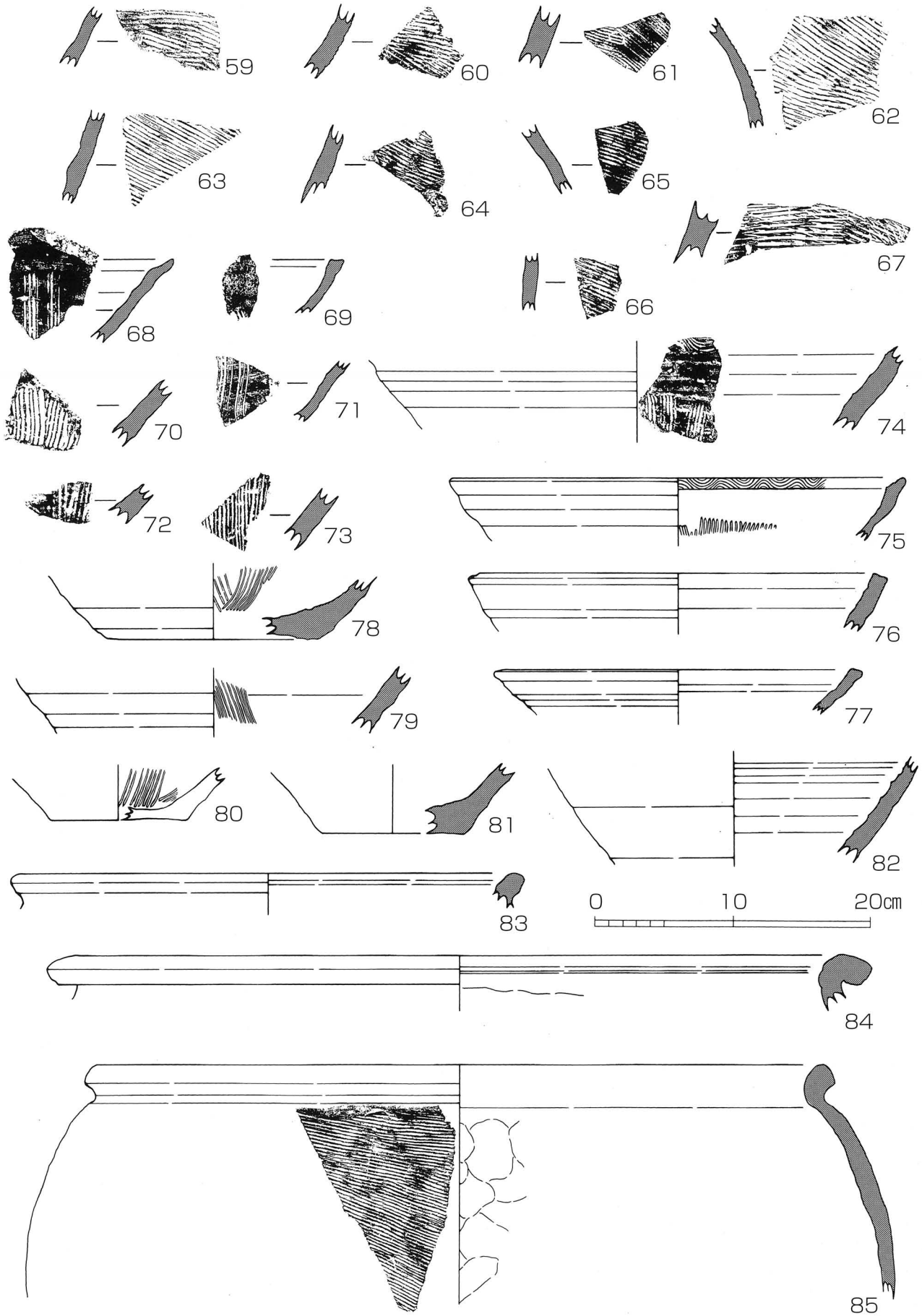
表2　試掘トレンチ一覧表（2）




第６図　出土遺物実測図（１）　津幡江遺跡（1/3）




第７図　出土遺物実測図（２）　今井遺跡（1/4）




第８図　出土遺物実測図（３）　今井遺跡（1/4）

| 番号 | 種　別 | 器種 | 口径 | 底径 | 器高 | 外面調整 | 内面調整 | 焼成 | 色調 | | 時　期 | 出土トレンチ | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | 内 | 外 | | | |
| 1 | 弥生土器 | 甕 | | | | ナデ、口縁端部キザミ | ナデ | やや良 | 淡黄橙 | 淡黄橙 | 中期後半 | T－30 | |
| 2 | 弥生土器 | 壷 | | | | 棒状具による沈線文、キザミ | | やや良 | 灰 | 灰黄 | 中期後半 | T－30 | 壷頸部突帯 |
| 3 | 弥生土器 | 甕 | | | | ナデ、口縁端部キザミ | ナデ、櫛状工具による羽状文 | やや良 | 淡黄 | 淡黄 | 中期後半 | T－30 | |
| 4 | 弥生土器 | 甕 | 13.7 | | | ナデ、ハケ | ナデ | やや良 | 淡黄 | 淡黄 | 中期後半 | T－30 | |
| 5 | 弥生土器 | 甕 | 14.2 | | | ハケ | ハケ | 不良 | 灰黄 | 灰黄 | 中期後半 | T－72 | |
| 6 | 弥生土器 | 壷 | 6.6 | | | ナデ、ハケ | ナデ、ハケ | やや良 | 灰白 | 灰白 | 中期後半 | T－30 | 内面粘土紐接合痕明瞭 |
| 7 | 弥生土器 | 甕 | 19.8 | | | 沈線文、連弧文斜縄文 | ハケ | やや良 | 浅黄 | 浅黄 | 中期後半 | T－30 | 栗林系？ |
| 8 | 弥生土器 | 壷 or 甕 | | 4.8 | | ナデ | ナデ | やや良 | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | 中期後半 | T－72 | |
| 9 | 弥生土器 | 壷 or 甕 | | 10.8 | | ハケ | ハケ、ナデ | 良好 | 浅黄 | 浅黄 | 中期後半 | T－72 | |
| 10 | 弥生土器 | 壷 | 19.5 | | | ハケ、口縁端部キザミ | ハケ | 良好 | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | 中期後半 | T－72 | |
| 11 | 弥生土器 | 壷 | 18.3 | 5.4 | | 口縁端部キザミ、ナデ、ハケ | ナデ、ハケ | やや良 | 灰黄 | にぶい黄橙 | 中期後半 | T－30 | |
| 12 | 須恵器 | 甕 | | | | タタキ | 同心円当具痕 | 良好 | 灰 | 灰 | | T－72 | |
| 13 | 珠洲 | 甕 | | | | タタキ | 当具痕 | 良好 | オリーブ灰 | オリーブ灰 | | T－30 | |
| 14 | 弥生土器 | 甕 | 15.5 | | | 疑凹線文 | ナデ | やや良 | 灰白 | にぶい黄 | 後期中葉 | T－57 | |
| 15 | 土師器 | 甕 | 12.6 | | | ナデ | ナデ、口縁端部面取 | 良好 | にぶい赤褐 | にぶい赤褐 | 古墳前期 | T－38 | 焼成良好で硬質 |
| 16 | 土師器 | 甕 | 16.7 | | | ナデ、ハケ | ハケ | やや良 | 浅黄 | 浅黄 | 古墳前～中期 | T－10 | 肩部内面指頭圧痕、内外面スス付着 |
| 17 | 土師器 | 高坏 | | | | ミガキ | 不明 | 良好 | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | 古墳前～中期 | T－38 | 焼成良好で硬質 |
| 18 | 土師器 | 器台 | | | | 不明 | 不明 | やや良 | 灰黄褐 | にぶい黄橙 | 古墳前期？ | T－16 | 脚部、内面しぼり痕 |
| 19 | 土師器 | 高坏 | | | | 不明 | ナデ | やや良 | 浅黄 | 浅黄 | | T－91 | 脚接合部 |
| 20 | 土師器 | 碗 | 14.8 | | | ナデ | ナデ | 良好 | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | 古墳中期 | T－16 | |
| 21 | 中世土師器 | 皿 | 6.1 | 4.1 | 1.1 | ナデ | ナデ | 良好 | 灰黄褐 | 灰黄褐 | 14C | T－16 | 非ロクロ成形 |
| 22 | 中世土師器 | 皿 | | 5.4 | | ナデ | ナデ | 良好 | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | 14C | T－16 | 非ロクロ成形 |
| 23 | 中世土師器 | 皿 | 7.4 | | | ナデ | ナデ | 良好 | 灰白 | 灰白 | 15C？ | T－96 | 非ロクロ成形、内外面スス付着 |
| 24 | 中世土師器 | 皿 | 8.5 | | | ナデ | ナデ | 良好 | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | 13～14C | T－66 | 非ロクロ成形 |
| 25 | 中世土師器 | 皿 | 8.8 | 6.8 | 1.3 | ナデ | ナデ | 良好 | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | 14C？ | T－13 | 非ロクロ成形 |
| 26 | 中世土師器 | 皿 | 9.4 | | | ナデ | ナデ | 良好 | 浅黄 | 浅黄 | 13～14C | T－43 | 非ロクロ成形 |
| 27 | 中世土師器 | 皿 | 12.4 | | | ナデ | ナデ | 良好 | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | 13～14C | T－66 | 非ロクロ成形 |
| 28 | 中世土師器 | 皿 | 8.2 | 4.4 | 2.4 | ナデ | ナデ | 良好 | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | 15C？ | T－16 | ロクロ成形、内外面スス付着 |
| 29 | 瓦質土器 | 火鉢？ | | | | ナデ | ナデ | 良好 | 灰黄褐 | 暗灰黄 | 近世？ | T－16 | 口縁端部内面肥厚、内面スス付着 |
| 30 | 瓦質土器 | 風炉 | | | | 菊花文スタンプ | ナデ | 不良 | 灰白 | 灰白 | | T－96 | |
| 31 | 瓦質土器 | 風炉 | | | | 菊花文スタンプ | ナデ | 良好 | 灰 | 灰 | | T－96 | |
| 32 | 瓷器系陶器 | 甕？ | | | | ハケメ | ナデ | 良好 | 灰黄褐 | 灰黄褐 | | T－16 | 外面に縦方向の調整 |
| 33 | 青白磁 | 碗 | 14.8 | | | 施釉 | 施釉 | 良好 | 明緑灰 | 明緑灰 | | T－64 | |
| 34 | 青磁 | 碗 | | 4.2 | | 施釉、鎬蓮弁文 | 施釉 | 良好 | オリーブ灰 | オリーブ灰 | 14C？ | T－86 | 龍泉系 |
| 35 | 青磁 | 碗 | | | | 施釉 | 施釉、不明文様 | 良好 | オリーブ灰 | オリーブ灰 | | T－96 | 龍泉系 |
| 36 | 青磁 | 盤 | | 13.0 | | 施釉 | 施釉 | 良好 | オリーブ灰 | オリーブ灰 | 14C | T－38 | 龍泉系 |
| 37 | 青磁 | 盤 | 30.8 | | | 施釉 | 施釉 | 良好 | 緑灰 | 緑灰 | 14C | T－53 | 龍泉系 |
| 38 | 越中瀬戸 | 皿 | | 5.6 | | ケズリ | 施釉 | やや良 | 灰白 | 灰白 | 17C | T－53 | |
| 39 | 越中瀬戸 | 皿 | | 6.0 | | ケズリ、施釉 | 施釉、釉剥 | 良好 | 灰黄 | 灰褐 | | T－57 | |
| 40 | 越中瀬戸？ | 不明 | | 9.0 | | 不明 | 不明 | やや良 | にぶい黄橙 | 黄灰 | | T－56 | |
| 41 | 伊万里 | 皿 | | | | 染付 | 染付 | 良好 | 灰白 | 灰白 | | T－50 | |
| 42 | 伊万里 | | | | | 染付 | 染付 | 良好 | 灰白 | 灰白 | | T－53 | |

表３　出土遺物観察表（１）

| 番号 | 種　別 | 器種 | 口径 | 底径 | 器高 | 外面調整 | 内面調整 | 焼成 | 色調 内 | 色調 外 | 時　期 | 出土トレンチ | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 43 | 伊万里 | 皿？ | | 6.6 | | 染付 | 染付 | 良好 | 灰白 | 灰白 | 17C？ | T－17 | 高台畳付に砂付着 |
| 44 | 珠洲 | 甕 | | | | タタキ８／３cm | ナデ | 良好 | 灰 | 灰 | 13C後半～14C後半 | T－95 | |
| 45 | 珠洲 | 甕 | | | | タタキ | ケズリ | 良好 | 灰 | 灰 | 13C後半～14C後半 | T－95 | |
| 46 | 珠洲 | 甕 | | | | タタキ12／３cm | ナデ、当具痕 | やや良 | 灰白 | 灰 | | T－43 | |
| 47 | 珠洲 | 甕 | | | | タタキ11／３cm | 当具痕 | 良好 | 灰白 | 灰白 | | T－43 | |
| 48 | 珠洲 | 甕 | | | | タタキ10／３cm | ナデ、当具痕 | 良好 | 灰 | 灰白 | | T－66 | |
| 49 | 珠洲 | 甕？ | | | | タタキ10／３cm | ナデ、当具痕 | 良好 | 灰 | 灰 | | T－39 | |
| 50 | 珠洲 | 甕 | | | | タタキ12／３cm | ナデ、当具痕 | 良好 | オリーブ灰 | オリーブ灰 | | T－96 | |
| 51 | 珠洲 | 甕？ | | | | タタキ８／３cm | ナデ | 良好 | 灰 | 灰 | | T－16 | |
| 52 | 珠洲 | 甕 | | | | タタキ10／３cm | 当具痕 | 良好 | 灰 | 灰 | | T－16 | |
| 53 | 珠洲 | 甕？ | | | | タタキ11／３cm | 当具痕 | 良好 | 灰 | 灰 | | T－94 | |
| 54 | 珠洲 | 壷？ | | | | タタキ11／３cm | ナデ、当具痕 | 良好 | 明オリーブ灰 | 明オリーブ灰 | | T－96 | |
| 55 | 珠洲 | 甕 | | | | タタキ15／３cm | 当具痕 | 良好 | 灰 | 灰 | | T－55 | |
| 56 | 珠洲 | 甕 | | | | タタキ８／３cm | ナデ | 良好 | 灰 | 灰 | | T－16 | |
| 57 | 珠洲 | 甕 | | | | タタキ７／３cm | 不明 | 不良 | 灰白 | 灰白 | | T－95 | 内外面共調整粗く、接合痕残る |
| 58 | 珠洲 | 甕？ | | | | タタキ９／３cm | 当具痕 | 良好 | 灰 | 灰白 | | T－16 | |
| 59 | 珠洲 | 壷？ | | | | タタキ８／３cm | 当具痕 | やや良 | 灰 | 灰 | | T－94 | |
| 60 | 珠洲 | 甕？ | | | | タタキ10／３cm | ナデ | 良好 | 灰 | 灰 | | T－38 | |
| 61 | 珠洲 | 甕 | | | | タタキ14／３cm | ナデ、当具痕 | 良好 | 灰 | 灰 | | T－54 | |
| 62 | 珠洲 | 壷 | | | | タタキ９／３cm | ナデ | 良好 | 灰 | 灰 | | T－55 | |
| 63 | 珠洲 | 壷 or 甕 | | | | タタキ11／３cm | ナデ、当具痕 | 良好 | 灰 | 灰 | | T－65 | |
| 64 | 珠洲 | 甕？ | | | | タタキ10／３cm | ナデ、当具痕 | やや良 | 黄灰 | 灰白 | | T－53 | |
| 65 | 珠洲 | 壷 | | | | タタキ12／３cm | ナデ | 良好 | 灰 | 灰 | | T－９ | |
| 66 | 珠洲 | 壷？ | | | | タタキ11／３cm | ナデ | 良好 | 灰 | 灰 | | T－41 | |
| 67 | 珠洲 | 甕 | | | | タタキ８／３cm | | | 灰 | 灰 | | T－12 | |
| 68 | 珠洲 | 擂鉢 | | | | ナデ | 卸目 | 良好 | 灰 | 灰 | 15C後半 | T－10 | |
| 69 | 珠洲 | 擂鉢 | | | | ナデ | 卸目 | 良好 | 灰 | 灰 | 14C後半～15C前半 | T－87 | |
| 70 | 珠洲 | 擂鉢 | | | | ナデ | 卸目 | やや良 | 灰 | 灰 | | T－96 | |
| 71 | 珠洲 | 擂鉢 | | | | ナデ | 卸目 | やや良 | 灰 | 灰 | | T－89 | |
| 72 | 珠洲 | 擂鉢 | | | | ナデ | 卸目 | 不良 | 灰 | 灰 | | T－16 | |
| 73 | 珠洲 | 擂鉢 | | | | ナデ | 卸目 | やや良 | 灰 | 灰 | | T－98 | |
| 74 | 珠洲 | 擂鉢 | 38＋ | | | ナデ | 口縁部波状文卸目 | 不良 | 灰 | 灰 | 15C後半 | T－95 | |
| 75 | 珠洲 | 擂鉢 | 32.9 | | | ナデ | 口縁部波状文卸目 | 良好 | 灰 | 灰 | 15C後半 | T－95 | |
| 76 | 珠洲 | 擂鉢 | 28.6 | | | ナデ | ナデ | 良好 | 灰 | 灰 | 13C後半～14C後半 | T－95 | |
| 77 | 珠洲 | 擂鉢 | 25.2 | | | ナデ（卸目？） | ナデ | 良好 | 灰 | 灰 | 13C後半～14C後半 | T－18 | |
| 78 | 珠洲 | 擂鉢 | | | | ナデ | 卸目 | 不良 | 黄灰 | 黄灰 | 15C末 | T－96 | |
| 79 | 珠洲 | 擂鉢 | | | | ナデ | 卸目 | 良好 | オリーブ灰 | オリーブ灰 | | T－96 | |
| 80 | 土師質土器 | 擂鉢 | | 10.1 | | ナデ | 卸目 | 良好 | 灰白 | 灰白 | | T－42 | |
| 81 | 珠洲 | 擂鉢 | | 10.3 | | ナデ | ナデ | 不良 | 黄灰 | 灰 | 15C後半～末 | T－23 | |
| 82 | 珠洲 | 壷 | | | | ナデ | ナデ | 良好 | 灰 | 灰 | | T－96 | |
| 83 | 珠洲 | 甕 | 37.4 | | | ナデ | ナデ | 良好 | 灰 | 灰 | 15C | T－66 | |
| 84 | 珠洲 | 甕 | 55.2 | | | ナデ | ナデ | 良好 | 灰 | 灰 | 14C後半～15C前半 | T－44 | 内面の粘土紐接合痕明瞭 |
| 85 | 珠洲 | 甕 | 52.8 | | | タタキ13／３cm | ナデ、当具痕 | 良好 | 灰 | 灰 | 13C後半～14C後半 | T－29 | |

番号は実測図及び写真図版の番号に対応（単位：cm）

表４　出土遺物観察表（２）

# 写真図版

調査対象地遠景
（南から）

作業風景

作業風景

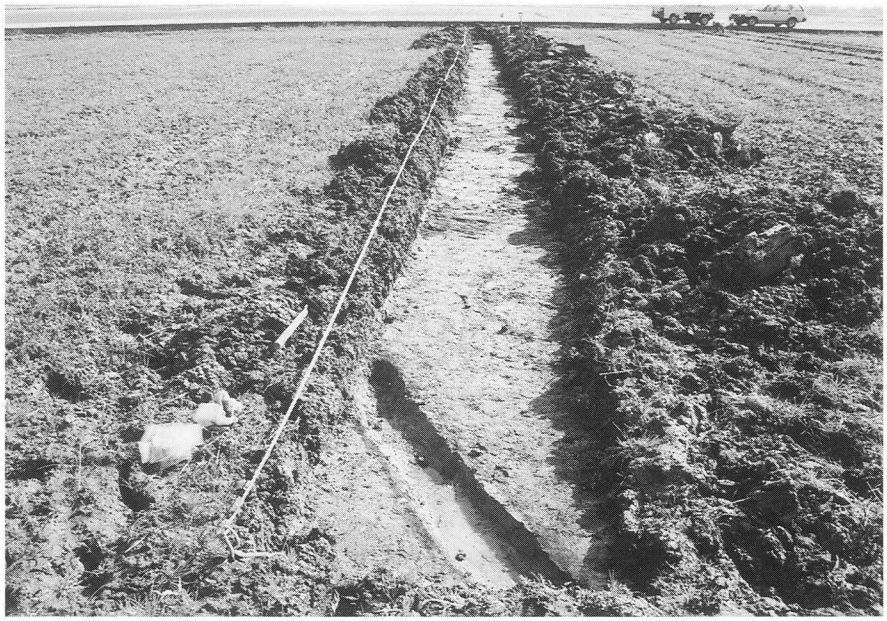
埋戻し作業

埋戻し作業

埋戻し後

T－30 遺構

T－30 遺物出土状況



T－30 全景（西から）

T－16 遺構

T－43 遺構

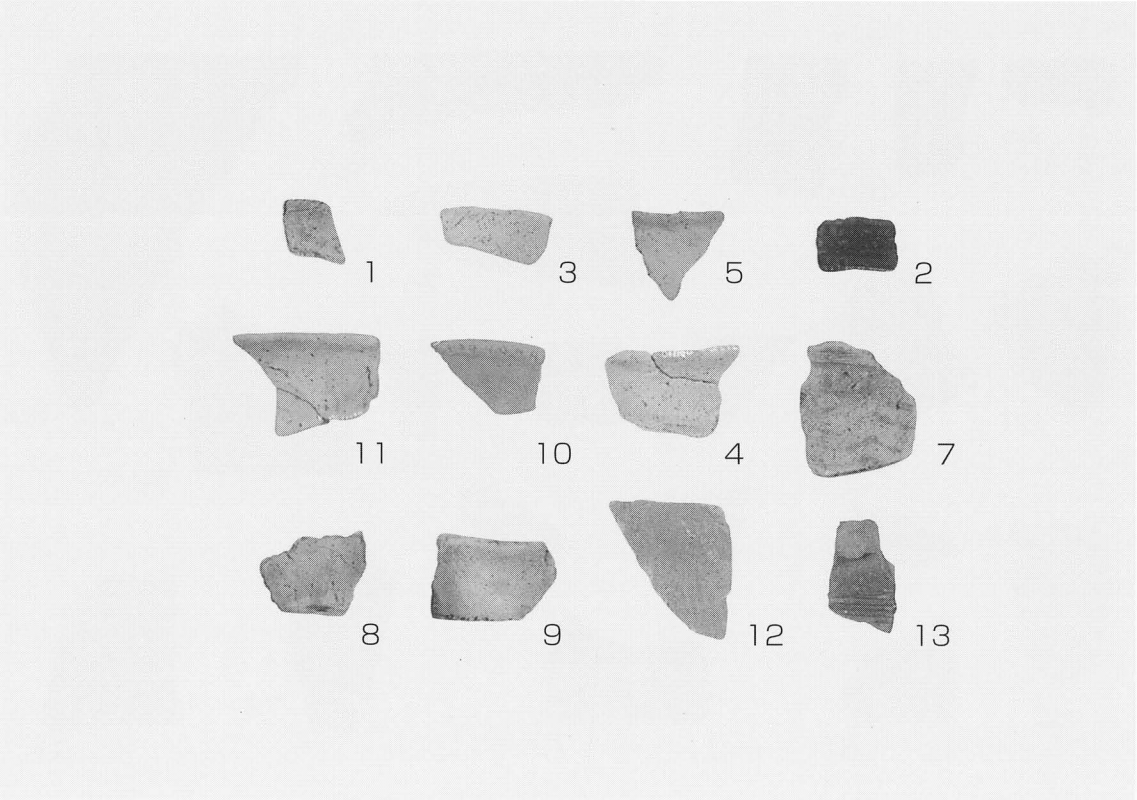
T－55 遺構

T－66 遺構（井戸）

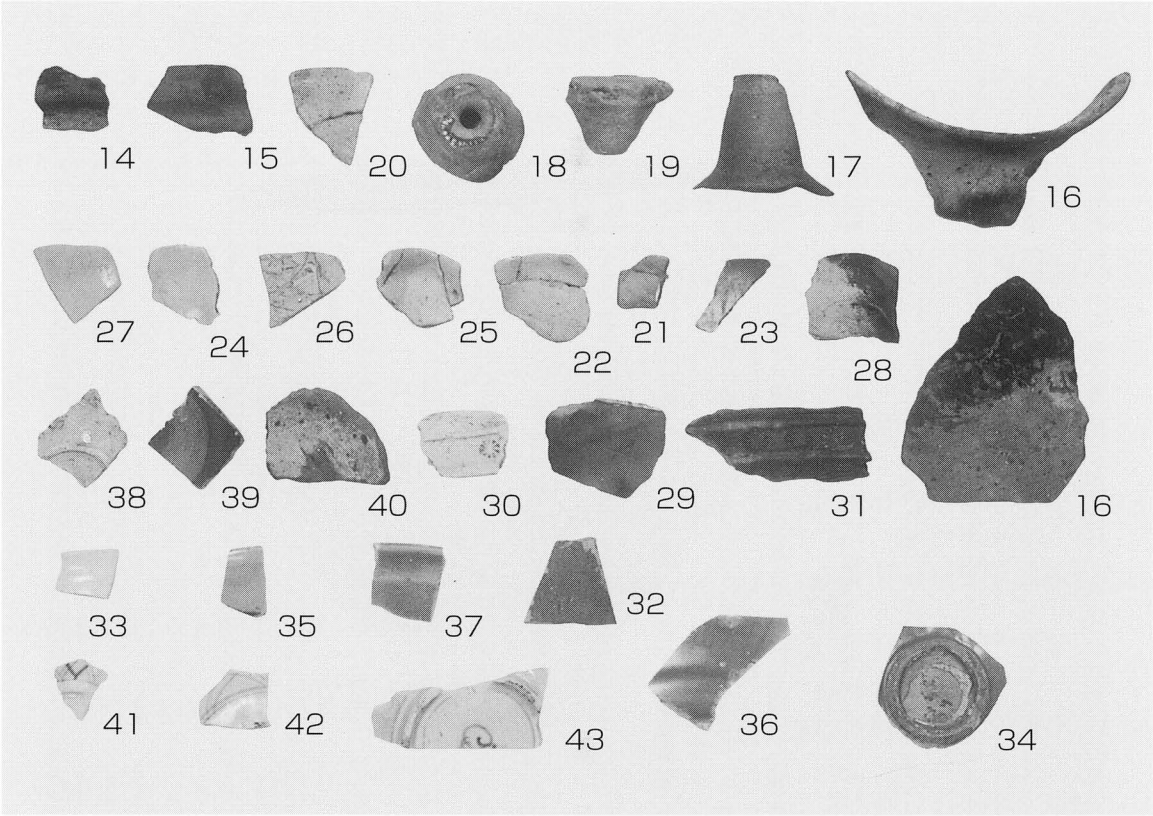
T－95 遺構

T－96 全景

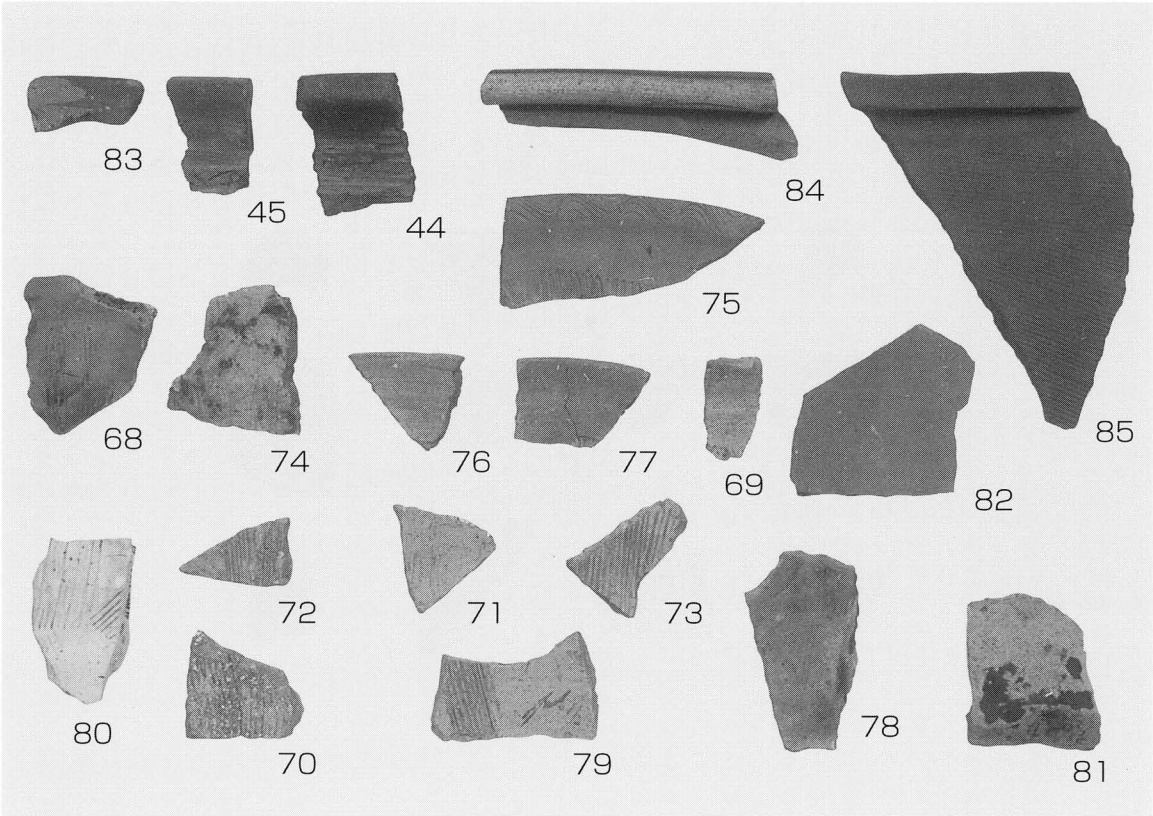
出土遺物（1）津幡江遺跡



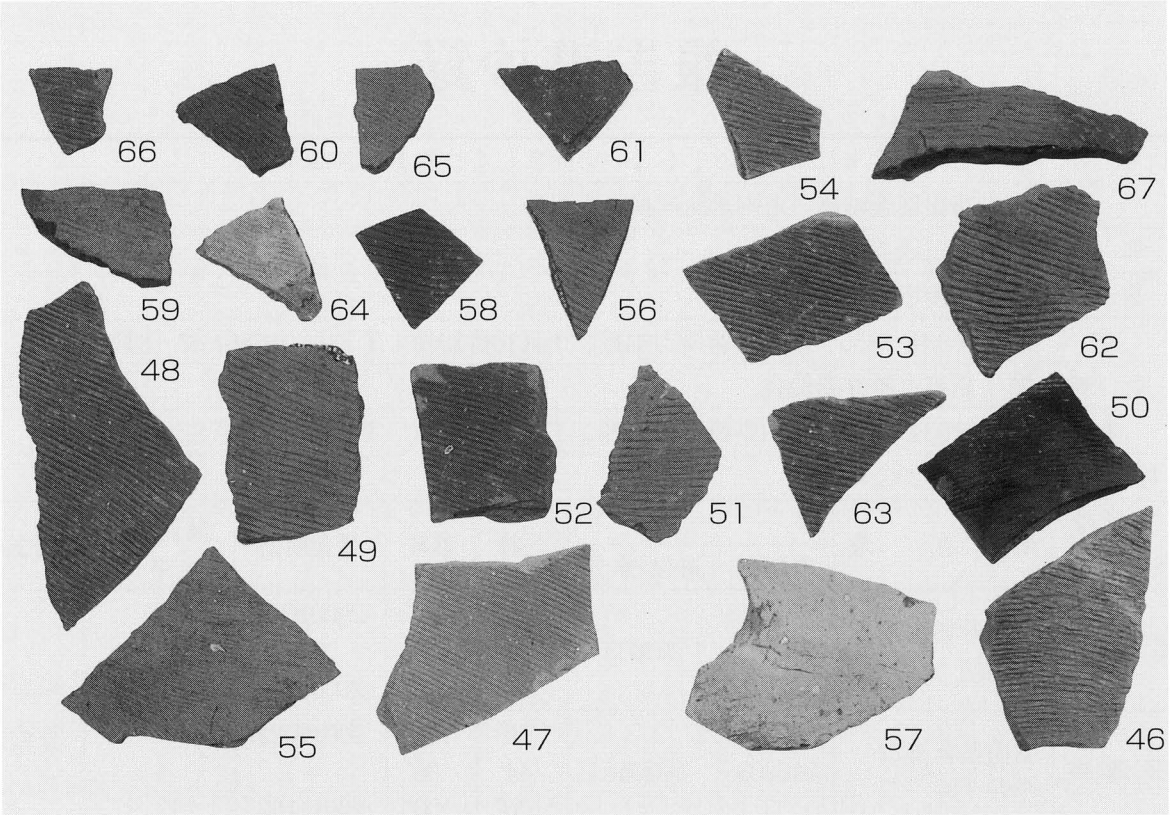

出土遺物（2）津幡江遺跡



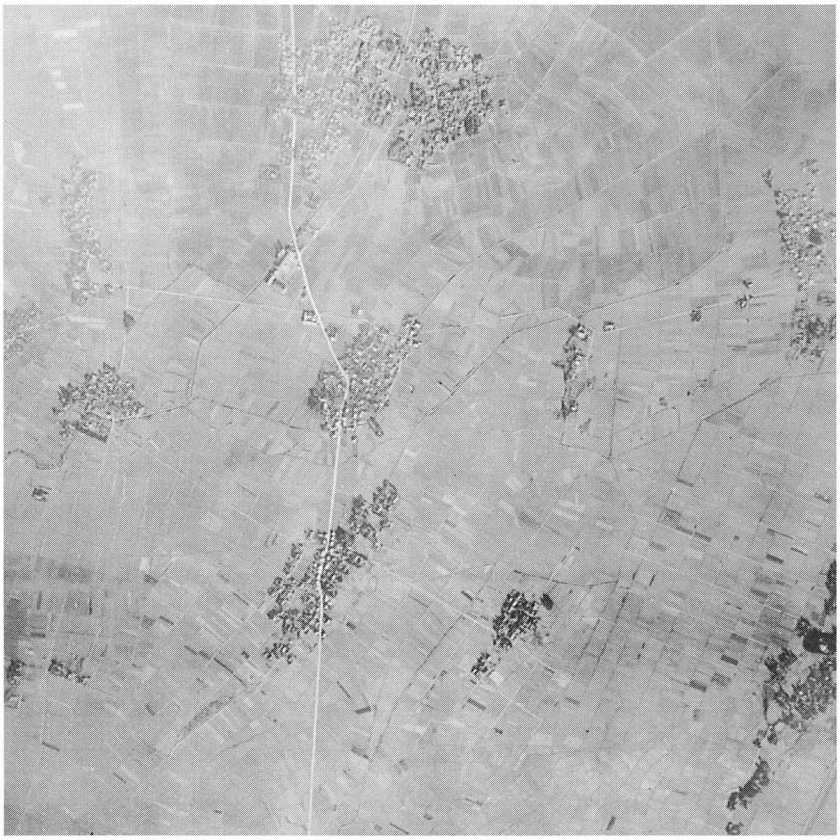

出土遺物（3）今井遺跡




出土遺物（4）今井遺跡




出土遺物（5）今井遺跡



調査対象地周辺航空写真（昭和22年）

この写真は、国土地理院長の承認を得て、米軍撮影の空中写真を複製したものである。
（承認番号）平13北複、第349号

# 報告書抄録

| | |
|---|---|
| ふ り が な | とやまけんしんみなとししないいせきしくつちょうさほうこく |
| 書　　名 | 富山県新湊市　市内遺跡試掘調査報告 |
| 編 著 者 名 | 金三津英則 |
| 編 集 機 関 | 新湊市教育委員会 |
| 所　在　地 | 〒934-8555　富山県新湊市本町二丁目10番30号　ＴＥＬ（0766）82－8312 |
| 発 行 機 関 | 新湊市教育委員会 |
| 所　在　地 | 〒934-8555　富山県新湊市本町二丁目10番30号　ＴＥＬ（0766）82－8312 |
| 発 行 年 月 日 | 西暦2002年３月 |

| ふりがな<br>所収遺跡名 | 所　在　地 | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積<br>m² | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| 津幡江（つばたえ）遺跡 | 富山県新湊市<br>津幡江 | 016203 | 203033 | 36°<br>44′<br>28″ | 137°<br>06′<br>15″ | 20001023<br>～<br>20001205 | 126,600 | 県営ほ場<br>整備事業 |
| 今井（いまい）遺跡 | 富山県新湊市<br>今井・沖 | 016203 | 203044 | 36°<br>44′<br>06″ | 137°<br>06′<br>00″ | 20011022<br>～<br>20011102 | | |

| 所収遺跡名 | 種　別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 津幡江遺跡 | 集落・散布地 | 弥生時代（中期） | 弥生中期　溝・土坑・落込み | 弥生土器・須恵器・珠洲 | |
| 今井遺跡 | 集落・散布地 | 弥生・古墳・中世 | 弥生後期　溝<br>中世　溝・土坑・井戸 | 弥生土器・土師器（古墳時代）・中世土師器皿・珠洲・瓦質土器・土師質土器・瓷器系陶器・青磁・青白磁・越中瀬戸・伊万里・近世陶磁器・砥石 | |

平成14年３月29日発行

富山県新湊市
市内遺跡試掘調査報告
新湊市沖地区県営ほ場整備事業に伴う津幡江遺跡・今井遺跡試掘調査報告

編　集　新湊市教育委員会
発　行　新湊市教育委員会
富山県新湊市本町二丁目10番30号
印　刷　㈱二口印刷